次の文章をよく読んで、５ページから９ページにある問いに答えなさい。

あなたの家の今朝の食卓を思い出してみてください。茶碗に盛られた白いご飯。そのとなりには熱々のお味噌汁。あるいは、パンの横に、サラダやスープや目玉焼きが並んでいるかもしれません。栄養バランスのとれたおいしいおかずが並んでいることでしょう。しかし、今日これからあなたに考えてほしいのは、ご飯やおかずのことではありません。それらをのせている「器」についてです。

国によって食卓のマナーが異なるように、器の扱い方も国によって異なっていて、たとえば、日本ではご飯を食べる茶碗はそれぞれ自分専用の器を使う家庭が多いようです。実は、これは世界的にも珍しい習慣です。なかには夫婦で使う**ア**夫婦茶碗というものもあり、結婚のお祝いとして贈られることがあります。

食卓の器を見てみましょう。ご飯をもりつけたそのお茶碗は、陶磁器ではありませんか。お味噌汁の入っているお椀はどうでしょう。木製ではないでしょうか。最近ではプラスチック製のものが多いかもしれません。日本の家庭の食卓に並ぶ器の歴史を考えると、ずっと長く主役をつとめていたのは木製の器でした。その後、陶磁器が登場してきました。木製の器と陶磁器、ここでは食卓に並ぶ器の主役たちに注目してみましょう。

まずは木製の器からです。人びとのくらしに器として密接にかかわってきたのは木製のお椀です。お椀ははじめ、木材をけずり、器の内側になる部分を手でくりぬいて作られていましたが、円盤を回転させる「ろくろ」が利用されるようになると形も整い、長持ちさせるために**イ**漆が塗られるようになりました。漆は木の表面に傷をつけてそこから採取します。それを塗料として使うのです。白木（材料の木材をくりぬき、けずったままのもの）に漆を塗って作られたものはお椀以外にもいろいろあり、そうした品物を漆器と呼びます。

奈良時代の終わりごろから漆の塗られたお椀が用いられるようになりますが、庶民の間では長い間お椀は白木のままでした。漆器は昔から高級品だったようで、江戸時代の農村では婚礼や葬式などがあると、人びとは村の庄屋のところへ行って漆器のお膳やお椀を借りて間に合わせました。庄屋の蔵にはこうしたお膳やお椀が 50 人分とか 100 人分も納められていました。次第にそれぞれの家で購入されるようになり、ふつうの家庭でも使われるようになっていったのです。

さて、ろくろを回してお椀を作る人を木地師と呼びます。トチやブナやケヤキなどの木を材料として仕事をする木地師は、もともとは山でくらす人たちだったといわれます。そうした木地師が作った白木のお椀は、漆を塗る職人である塗師の仕事に引きつがれ、さらに漆の上にさまざまな装飾をほどこす職人の手も加わることになります。漆器の産地はいまでも全国に何か所かありますが、江戸時代に藩が木地師や塗師を集めて漆器づくりを奨励したことから発達した例もあります。

漆器で忘れてはいけないのは輪島塗でしょう。江戸時代には、その品質の高さで広く知ら

れるようになりました。たとえばアイヌの人たちが輪島の漆器を購入し、神さまにささげものをするときの器として使ったという話もあります。実際、いまでもその漆器が多く残されています。

輪島塗の発展を支えたのは、作業を細かく分担し、それぞれに専門の職人をおく分業の仕組みでした。現在でも、全部で124の作業に分けて作られていて、塗りだけで24の作業があります。輪島の高級漆器のなかには、金箔をふんだんに使って、細かい細工をほどこしたものも少なくありません。欧米で漆器のことを「ジャパン」と呼ぶことがありますが、それは日本の漆器の質の高さを示しています。

ウ輪島は漆器の代表的産地として発展してきましたが、他の産地と同様に、現在はたいへん厳しい現実に直面しています。輪島に限った話ではありませんが、高い技術をどのように維持し、産業として成り立たせていくかが問われています。

陶磁器に話を移し、**エ**縄文土器のことから始めましょう。縄文土器は、日本列島に住み着いた人びとが初めて使用した器といえます。世界各地でさまざまな土器が発見され、使われていたことが報告されていますが、縄文土器は世界的にとても古いものなのです。縄文時代は約1万年続き、その間にさまざまな形の土器が作られたことが知られています。なかには、燃え上がる炎をかたどったような、独特な形のものもみられます。

日本列島に大陸から稲作の文化が入ってくるのは、縄文時代の終わりごろです。そのころ、列島では弥生土器と呼ばれる新しい土器が作られるようになりました。これはそれまでの土器とは異なり、薄くて硬い仕上がりの土器でした。時を経るごとに、土器づくりの技術は向上していったのです。

【陶器と磁器の比較】

	陶器	磁器
材料	土。乾燥させ、粘土を作る。そのため陶器は「土もの」と呼ばれる	岩石。砕いて粉末にし、粘土を作る。そのため磁器は「石もの」と呼ばれる
形の作り方	ろくろを用いるだけでなく、手でこねたり、型にはめたりなど、いろいろな方法で形をとることができる	ろくろが用いられてきたが、今では鋳型に材料の粘土を流し込む方法が普及している
焼く温度	低温（1100～1200度）の火で焼く	高温（1250～1400度）の火で焼く
特徴	磁器より厚い。ザラザラ、でこぼこした手触りで、光をとおさない。指ではじくと鈍い音がする	陶器より薄くて硬い。表面がつるつるし、光にかざすとすけてみえる。指ではじくと「チン」という金属音がする

そうした土器の長い時代を経て、いま私たちが使っている陶磁器が登場します。日本では現在、陶磁器の産地は100を越えるといわれています。それぞれの特徴を活かした焼き物が各地で作られていて、有田焼や瀬戸焼、**オ**益子焼、備前焼、萩焼などがとくに知られています。ただ、ひとくちに陶磁器といっても陶器と磁器とでは、作り方も見た目も異なります。二つの違いは、前のページの表にある通りです。

陶磁器の歴史のなかで、日本の位置する東アジアは重要な役割を果たしてきました。その東アジアで陶磁器の文化をリードしたのは、なんといっても中国です。欧米で「ジャパン」は漆器でしたが、「チャイナ」は磁器を意味することがあります。

中国では紀元前16世紀には表面に「釉薬」をかけた陶器が作られていました。釉薬をかけて焼くと、薄いガラス質の膜ができて、美しい色になったり、水分の吸収を防いだりすることができるようになります。磁器についても紀元1世紀ごろには作られ始め、唐などの王朝の発展とともに高度な技術が確立しました。ユーラシア大陸にまたがる交易のなかでも、中国の陶磁器は重要な交易品だったのです。また、陶磁器が南シナ海からインド沿岸をとおって西アジアやアフリカに海路で運ばれていたこともあって、この道を「セラミックロード（陶磁の道）」とか、「海のシルクロード」と呼ぶことがあります。実際、この道につながる各地には古い時代の中国製の陶磁器が現存し、さらに昔の難破船から大量の陶磁器が発見されることもあるのです。**カ**このような発展をとげた中国の産地でも、磁器を生産するために分業を取り入れていました。

朝鮮半島にも陶磁器の長い歴史があります。たとえば4世紀から6世紀にかけて栄え、日本とも交流のあった百済などでは、すでに釉薬をほどこした陶器が作られていました。磁器についても10世紀には中国から製法が伝わって生産が始まっています。

こうした中国や朝鮮半島からの影響を受けた陶器が日本で作られるようになったのは、平安時代の後期になってからだといわれます。現在の瀬戸市周辺の一帯では、この時期さかんに陶器を焼いた作業場の跡が1000か所ほども見つかっています。間違いなくこの地域は陶器の一大生産地だったのでしょう。**キ**現在でも「セトモノ」は陶磁器の代名詞です。

日本での陶磁器の生産に飛躍的な発展をもたらしたのは、「茶の湯」の流行でした。茶の湯はもともと仏教の僧侶が中国から伝えたものですが、それが武士の間にもひろがります。そして、茶の湯への関心は、そこで使う茶碗などの道具への興味につながっていきました。この時代から、日本の陶器の技術はますます多様になり、そこに独特の美しさを追求するようにもなりました。茶碗ひとつが一国一城と同じ価値を持つほどの熱狂を、大名たちの間に引き起こしたりもしました。日本による朝鮮侵略のときには、5～6万人もの朝鮮人が日本に連れてこられ、そのなかには数多くの陶工（陶磁器づくりの技術をもつ人）が含まれていたといわれています。

そして日本でも磁器が作られるようになりました。磁器を作るために不可欠な岩石の鉱脈が日本で発見されたのです。発見したのは李参平という朝鮮の陶工でした。この人には鉱山

技師のような高い能力があったのでしょう。場所は九州の有田で、1616 年のことだとされます。日本での磁器生産の歴史はこうして有田から始まったのです。**ク**鍋島（佐賀）藩の手厚い保護のもとに、有田での磁器づくりの技術は急速に向上します。とくに、赤色を使った華やかな色絵が有名でした。

有田焼をはじめ、陶磁器の多くの産地が各藩の統制のもとにおかれました。**ケ**たとえば薩摩（鹿児島）藩では、朝鮮出身の陶工は、城下町から遠く離れた場所に集められ住まわされました。この結果、各藩の個性ある陶磁器づくりが花開いていったのです。

有田の陶山神社にある李参平の碑

陶磁器は、江戸時代の終わりごろから次第に庶民の間でも使われるようになりました。さらに明治時代には輸出産業としても発展していきました。このような歴史の流れを経て、現在の日本の陶磁器があります。もっとも現在の日本では、ふだんの生活で使う器は、外国からの安い輸入品でまかなわれ、国内で作られている陶磁器は比較的値段が高く、どちらかといえば高級品と呼んだ方がよいものに限られてしまっています。日本の陶磁器産業もまた、厳しい現実に直面しているのです。

ただ、陶磁器の技術が意外なところで使われていることは知っておいてよいでしょう。たとえば、いま多くの人が使っている携帯電話にも陶磁器の技術は使われています。陶磁器のことを英語でセラミックスといいますが、いろいろな原料に特別な加工を行い、硬くて熱に強いというセラミックスの特徴を最大限に引き出したものをファインセラミックスと呼びます。このファインセラミックスのなかには電気を蓄える装置を作るのに不可欠なものもあり、携帯電話を小型化するのに役立っています。**コ**ファインセラミックスはさまざま分野で使われていて、私たちの生活に欠かせないものになっています。

話を器にもどしましょう。大昔、泉や川などの水場で水を手ですくって飲んでいた人が、自分の手に代わるものとして器を考えついたということが、器の始まりだといえるでしょう。器は人の手の延長として始まったのです。運び、蓄えるために、器は大いに役立ってきたはずです。器という道具を手に入れることで、人びとの生活は大きく変わりました。人びとは、より使いやすい器を工夫して作り出してきたのです。しかし、器の歴史を調べてみると、人間と器の関係はそれだけではないことがわかります。つまり、**サ**器はたんに生活を便利にするための道具としてだけでなく、それとは異なる意味や役割をもつことによって、私たちの生活や社会のあり方にさまざまな影響をおよぼしてきたのです。

問１　以下にあげる① ～ ③は、この文章と関係がある人物です。これらの人物はいつの時代に、どのようなことをしたのでしょうか。例にならって、それぞれ答えなさい。

例　ザビエル：戦国時代に来日し、ヨーロッパからキリスト教を伝えた。

① シャクシャイン　　② 栄西　　③ 千利休

問２　下線部**ア**について。**写真１**のように、夫婦茶碗とは大きさの違う茶碗をひと組にしたものです。しかし最近では、このような茶碗を好まない人も増えているようです。それはなぜでしょうか、理由を答えなさい。

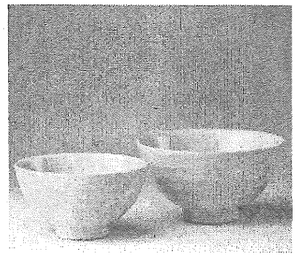


写真１　夫婦茶碗の一例

問３　下線部**イ**について。漆は以下にあげる植物とともに「四木三草」といわれ、とくに江戸時代の農村では、他の植物とは区別されてきました。これらの植物の共通点は何ですか、答えなさい。

〔 茶、桑、楮、麻、藍、紅花 〕

問４　下線部**ウ**について。輪島塗の産地には、他の漆器の産地と比べてどのような特徴がありますか。下の表からわかることを答えなさい。

主要な漆器産地の生産額、企業数、従業員数など（2005 年度）

産地（漆器生産額順）	漆器生産額（100 万円）	うち伝統的工芸品生産額（100 万円）	企業数	従業員数	伝統工芸士登録数
山中漆器（石川県）	12500	4000	413	2200	78
香川漆器（香川県）	8000	800	59	845	33
会津塗（福島県）	7750	800	336	1767	73
越前漆器（福井県）	7500	750	260	1070	54
輪島塗（石川県）	7200	7200	634	1760	132
紀州漆器（和歌山県）	5680	410	185	805	11
木曽漆器（長野県）	3200	1600	173	690	86
飛騨春慶（岐阜県）	1500	600	51	194	44
川連漆器（秋田県）	1330	1180	162	584	43
京漆器（京都府）	1000	1000	61	300	50
全国	60114	20757	2777	11291	575

（『全国伝統的工芸品総覧』などから作成）

問５　下線部**エ**について。以下の**写真２、３**の土器を、縄文時代の人びとは何のために使ったと考えられますか。当時の生活のようすを考えて、それぞれ説明しなさい。

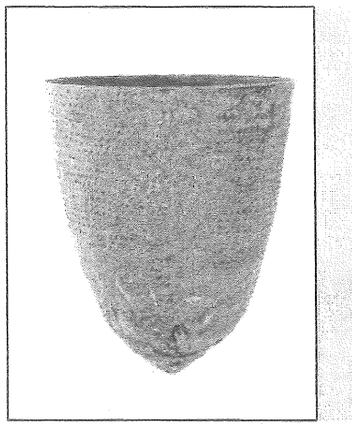


写真２

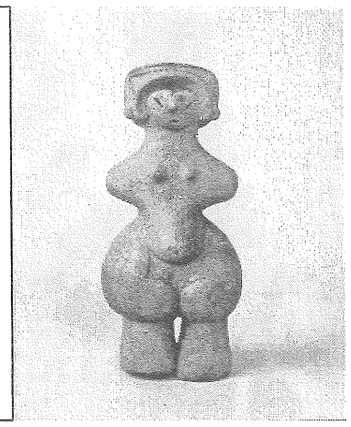


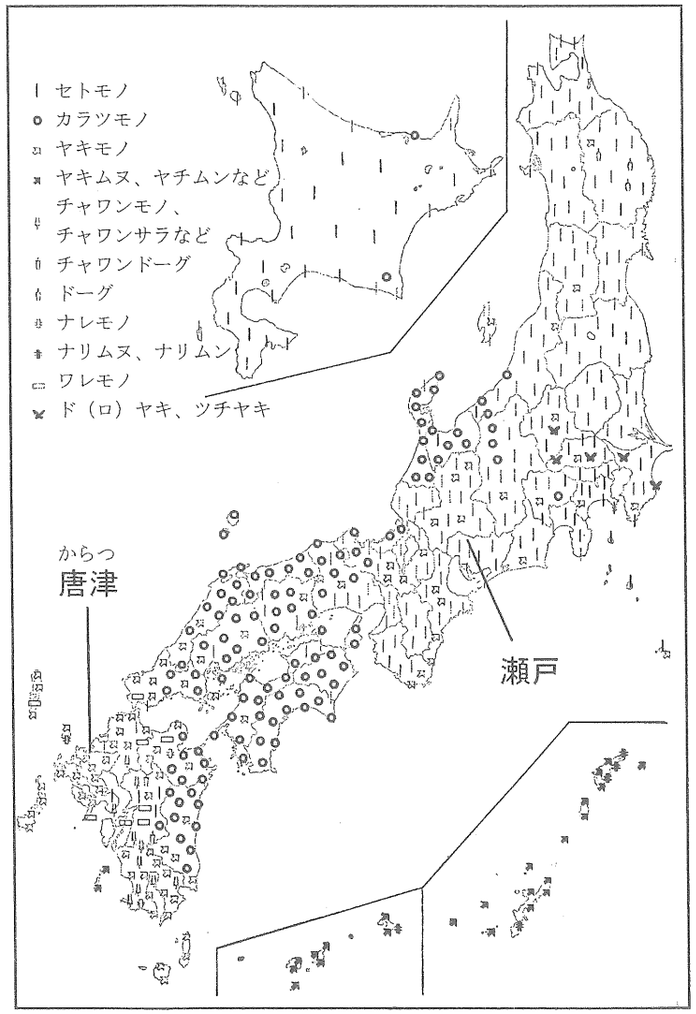
写真３

問６　下線部**オ**について。陶磁器の産地である、益子、備前、萩の位置を**地図１**から選び、それぞれ記号で答えなさい。

地図１

問７　下線部**カ**について。分業を取り入れることで生まれる良い点は何ですか、二つ答えなさい。

問８　下線部**キ**について。**地図２**をみると、陶磁器は、東では主に「セトモノ」、西では主に「カラツモノ」と呼ばれていたことがわかります。それ以外に、セトモノとカラツモノの分布について目立つ特徴を一つあげ、その理由として考えられることを答えなさい。



地図２　（徳川宗賢（むねまさ）『日本の方言地図』より
国立国語研究所 1957～65 年の調査による）

問９　下線部**ク**について。**写真４**は有田で作られた絵皿です。なぜこの時代の有田焼の皿にヨーロッパの文字が記されているのでしょうか、答えなさい。

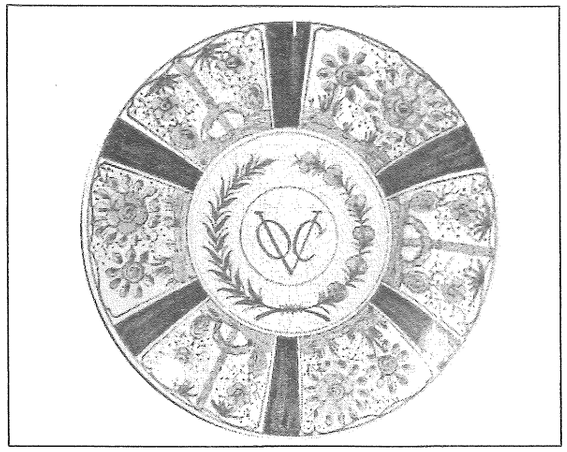


写真４

問 10　下線部**ケ**について。藩が朝鮮出身の陶工を城下町から離れた場所に集めて住まわせたのはなぜですか、答えなさい。

問 11　下線部**コ**について。陶磁器から生まれたファインセラミックスが最新の電子機器に役立っているように、人間が昔から使ってきたもので、現代では新たな使われ方をするようになったものが他にもあります。どのようなものがあるでしょうか。身のまわりから一つあげ、使われ方の変化がわかるように説明しなさい。

問 12　下線部**サ**について。器はものを入れるための道具として、私たちの生活を便利にしてきました。しかし、便利さだけではない意味や役割をもつことによって、器は私たちの生活や社会のあり方にさまざまな影響をおよぼしてきたともいえます。本文をよく読んで、器がもつようになった意味や役割を一つあげ、どのような影響を生活や社会に与えたか、80 字以上 120 字以内で説明しなさい。ただし句読点も 1 字分とします。

＜問題はここで終わりです＞

受験番号	
氏　　名	

(2015 年度)

社会解答用紙（その１）

問1

① シャクシャイン：

② 栄　　西　：

③ 千 利 休　：

問2

問3

問4

問5

写真２

写真３

問6

益 子	備 前	萩

問7

(整 理 番 号)

小　　計

受験番号	
氏　　名	

(2015 年度)

社会解答用紙（その２）

問8

問9

問10

問11

問12

(80)

(120)

(整理番号)

小　　計